豊かな生命あふれる草原を

秋吉台草原ふれあいプロジェクト 平成25年度(2013)報告書概要版

西日本最大のカルスト台地・秋吉台では、毎年の 山焼きで広大な草原が維持されており、風景そのも のが観光資源となっています。また、草を畑や牛の 餌に利用する慣習も残り、古くから草原を利用して きた地元の文化を知ることもできます。さらに、全 国的にも数が少なくなった草原特有の動植物のすみ かとしても重要です。

本プロジェクトでは、秋吉台の草原景観とそこに すむ生きものを守ることを目的に、以下の5つの事 業に取り組んでいます。



お花畑プロジェクト

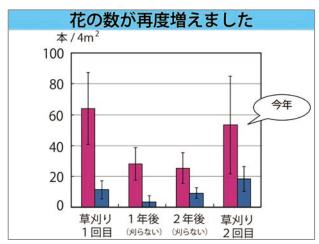
山焼きが毎年実施されるにも関わらず燃え残りが多い場所では、ネザサなどの草丈が高くなっていきます。こういった場所では、生育する植物の種類が少なくなります。一方、農家が草を刈って利用する採草地では、秋の花を中心に多くの花が咲きます。この採草地と同様「花が多い」状況を作り出そうというのが「秋吉台お花畑プロジェクト」です。

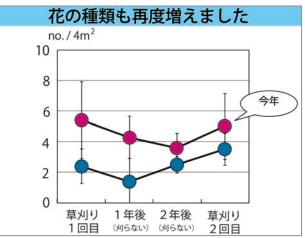
ここでの草刈り作業は7月中旬に行います。刈った草はすべて持ち出し、地元の畑に使ってもらいます。草刈り場所を毎年替えるため、3年に1度の草刈り頻度になっていますが、草を刈った年の秋は刈らなかった年よりも明らかに多くの花が咲きました。また、咲く花の種類も増えました。

秋の観察会では、一定面積内に生える植物の種類 を数え、草刈り跡地では植物が増えることを確認し



ました。毎年、山口むしの会の会員さんから採草地で生育するチョウの保全についてのお話がありますが、今回は参加者全員に秋吉台と自分の関わりについてご披露いただき、たいへん盛り上がりました。







草原の復元プロジェクト

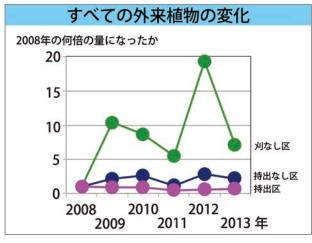
1991 年時点ではクリ園であり、その 後放棄された長者ヶ森東側の草原には、 2008 年のヤブ刈り作業直後から、耕作放棄地と同

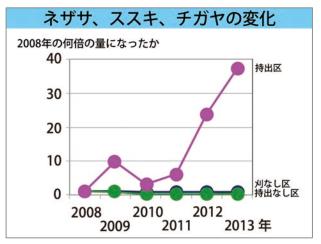
2008年のヤフ刈り作業直後から、耕作放棄地と同様セイタカアワダチソウを中心とする植生が成立しています。

この場所は多くの人の訪れる長者ヶ森の周辺であるため、景観整備の意味もこめて年2回の草刈り作業を行ってきました。

草刈りを続け、刈り草を持ち出した場所ではセイ







タカアワダチソウを中心とする外来植物は増えていません。逆に、ネザサ、ススキといった草原の植物が少しずつ増えてきています。特にネザサの面積は年々拡大しています。さらに、今年は初めてチガヤが出現し、ススキも穂をつけました。

劇的な効果は見られませんが、毎年少しずつ成果 は現れています。地道に作業を続けていきます。



遊歩道にお花畑づくり

秋吉台上のおもな遊歩道沿いは、秋の 散策者が多くなる時期に合わせて、9~10 月に草刈 り整備されるのが通例でした。しかし、刈った草が 放置される歩道沿いは、つぼみをつけた草花が刈ら れてしまうだけではなく、積み重なった草が日光を 遮り、植物の生育を妨げてしまいます。遊歩道沿い にはムラサキセンブリやオキナグサなどの絶滅危惧 植物が多く生育していましたが、現在はかなり少な くなったと言われています。

そこで、草刈り整備の時期を7月に早め、刈った草を持ち出す作業を2010年から続けてきました。

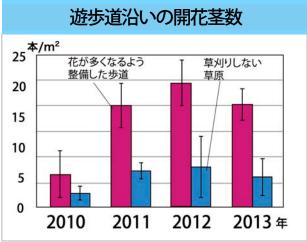
その結果、7月に草を刈って持ちだした遊歩道沿



いは、そのすぐそばの草刈りをしない草原よりも多くの花が咲くようになりました。また、草丈の低い環境に生育するムラサキセンブリやセンブリなどの 絶滅危惧植物、またウメバチソウなどの国定公園の 指定植物の個体数が大きく増加しました。

秋にはこの整備方法とその効果を記した説明板を 歩道沿いに設置し、事業の周知と歩道沿いの植物の 保護を呼びかけました。





🤽 追加の山焼き

山焼きの作業では、風向きや地形によって燃え残る場所が出てきます。燃え残った場所は草丈が高くなり、生きものが少なくなってくるため、数年前までは行政を中心に燃え残りの整備が行われていました。

現在は行政による燃え残り整備は行われません。 本プロジェクトでは、長者ヶ森の北西側のドリーネ とクヌギの多い斜面で燃え残り整備を行い、景観の 整備につとめています。

火入れは消防署の許可を取って行いました。作業者は一般の見学者と区別するため、赤いキャップをかぶりました。燃え残った草を刈り倒してから丁寧に火を着けていき、枯れ草が立っていた場所もきれいに整備ができました。







小学生の草原学習

将来を担う子どもたちにふるさとの自然に親しみ、もっと秋吉台のことを知ってもらおうと、2012 年度から地元の小学生の草原学習を受け入れています。年間をとおしての自然観察が中心で

す。今年は2校の学習がありました。

子どもたちは、講師の話を熱心に聞いていました。 そして、広大な大地を踏みしめながら歩き、虫や花 に触れ、笑顔いっぱいで過ごしていました。













秋吉台草原ふれあいプロジェクト http://akiyoshidai.org/

事務局: 秋吉台エコ・ミュージアム 〒754-0302 山口県美祢市美東町赤 Tel&Fax:08396-2-2622 E-mail: staff@akiyoshidai.org